

平成 25 年 11 月 26 日	<b>病害虫発生予報</b> <b>12 月号</b>	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
----------------------	--------------------------------	------------------------

今年の防除作業を振り返り、次作に向けて日誌等を準備し、  
よりよい防除へつなげましょう！

< 目 次 >

I. 今月の予報	
<b>【注意すべき病害虫】</b>	
イチゴ：うどんこ病，ハダニ類	1
促成ピーマン：うどんこ病	2
<b>【その他の病害虫】</b>	2
促成ピーマン	
<b>【防除所レポート】</b>	
大豆(莢及び子実)の病害虫発生状況について	3
II. 今月の気象予報	4

本文に記載されている薬剤は平成 25 年 11 月 20 日現在のものです。  
最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。  
茨城県病害虫防除所      Tel : 029-227-2445  
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。  
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在，発病葉率(本年値 5.1%，平年値 3.8%)，発病果率(本年値 0.2%，平年値 1.0%)及び発生地点率は平年並である。ただし，発生程度は圃場による差が大きい。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため，できるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 発病の予防には，硫黄のくん煙処理が省力的で有効である。
- ⑤ ミツバチや天敵を使用する場合は，薬剤の影響日数等に十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては，果実に汚れが付くものもあるので，十分注意する。

### 2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在，寄生葉率(本年値 17.6%，平年値 5.9%)，被害葉率(本年値 22.6%，平年値 7.8%)ともに平年より高く，発生地点率は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。薬剤は，古い下葉を除去してから散布すると効果的である。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は，薬剤の影響日数等に十分注意する。

## 促成ピーマン

### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在，発病度\*（本年値9.4，平年値1.6）は平年より高く，発生地点率（本年値60%，平年値33%）は平年よりやや高い。ただし，発生程度は圃場による差が大きい。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため，できるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は，薬液が葉裏によくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の発生を防ぐため，異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合は，天敵への影響に十分注意する。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	アザミウマ類	発生量：平年並～やや少ない	11月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。

## 大豆(莢及び子実)の病害虫発生状況について

平成 25 年産大豆について、防除所で調査している 12 圃場を対象に莢及び子実における病害虫の発生状況を表にまとめました。

本年は、特に発生が目立った病害虫はありませんでしたが、紫斑病が平年並、例年被害粒の主要因となる吸実性カメムシ類の被害が平年よりやや少ない発生でした。また、マメシクイガの被害(写真 1)が平年よりやや多く、ダイズサヤタマバエの被害(写真 2, 3)が平年並～やや多く、チョウ目幼虫の被害は平年並の発生でした。

表 平成25年産 大豆分解調査結果

病害虫名	被害粒率(%) <sup>1)</sup>			発生地点率(%)		
	本年	平年 <sup>2)</sup>	順位 <sup>3)</sup>	本年	平年 <sup>2)</sup>	順位 <sup>3)</sup>
紫斑病	0.6	0.9	6	50	48	5-6
吸実性カメムシ類	2.4	3.4	10	92	86	5-6
マメシクイガ	2.3	2.1	3	75	68	2
ダイズサヤタマバエ	2.0	1.6	4	92	70	3
ツメクサガ等のチョウ目幼虫	0.1	0.1	4	8	11	5

1) ダイズサヤタマバエは被害莢率(%)

2) 平年：平成 15 年～24 年(10 年間)分のデータの平均値。

3) 順位：過去 11 年間における本年値の順位を示す(5-6 は 5 位と 6 位が同じ数値であることを表す)。

調査圃場：県内 12 地点の大豆圃場 (タチナガハ 7 地点, 納豆小粒 5 地点)

調査方法：1 圃場当たり 10 株の上位 20 莢程度(合計 200 莢程度)を採集し、莢及び子実の被害を調査した。

採集時期：平成 25 年 10 月下旬



写真1 マメシクイガの被害の様子

- マメシクイガ(写真 1)  
莢の縫合部付近に脱出孔(丸で囲った部分)が見られる。子実は縫合部に沿って溝状に被害される。糞は細い鋸くず状で、色は橙色に近い。
- ダイズサヤタマバエ(写真 2, 3)  
莢の被害部分は不稔となり(写真 2)、蛹の抜け殻(丸で囲った部分)がついていることが多い(写真 3)。



写真2 ダイズサヤタマバエによる被害莢



写真3 ダイズサヤタマバエの蛹の抜け殻

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 11月23日から12月22日)

気象庁(11月22日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 11月23日(土曜日)から11月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<2週目の予報> 11月30日(土曜日)から12月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年の確率40%

<3週目から4週目の予報> 12月7日(土曜日)から12月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より低い確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。